



うさぎ保育所のクリスマス会について

平成30年12月22日(土)にうさぎ保育所のクリスマス会を行いました。

何日も前からうさぎ保育所にサンタさんが来てくれるのを心待ちにしていた子どもたち。当日は保護者の方々にもたくさん参加していただき、賑やかに開催することができました。

ひまわり組(3・4・5歳児)の子どもたちによるキャンドルサービスからスタートし、厳かな雰囲気の中、クリスマスツリーに点灯。素敵な歌と踊りの後は、年長児さんによるハンドベル演奏に会場は大いに湧きました。

そして、鈴の音と共に待ちに待ったサンタさんの登場でさらに盛り上がりしました。サンタさんと一緒にクリスマスソングを歌ったり、質問タイムではサンタさんをドキッとさせる質問が飛び出したりと、楽しく第一部を終えました。

第二部は、各クラスでのパーティー。手作りスイーツとお茶で歓談しながら、一人ずつにサンタさんからプレゼントが手渡されました。「来年もきてね〜!」と手を振り、楽しく会が終わりました。

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

2月15日～3月14日

対象者： **一般** 一般市民 **医療** 医療関係者 **本学** 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
2/15(金) 9:30～11:30	平成30年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 がん相談支援センター	一般	島根大学医学部附属病院
2/17(日) 13:30～15:30	がんゲノム医療 市民公開講座「がんゲノム医療って知っていますか？」 「遺伝子パネル検査を用いたがんプレジジョンメディシン」 島根大学医学部附属病院 がんゲノム医療センター センター長/産科・婦人科 中山 健太郎 准教授 「肺がん治療の最新情報とゲノム医療」 島根大学医学部附属病院 がんゲノム医療センター 副センター長/呼吸器・化学療法内科 津端 由佳里 講師 「消化器がんとゲノム医療」 島根大学医学部附属病院 がんゲノム医療センター/先端がん治療センター 森山 一郎 学内講師 「遺伝性乳がん卵巣がん症候群と婦人科領域のゲノム医療の展望」 島根大学医学部附属病院 がんゲノム医療センター 産科・婦人科 中村 康平 助教	みらい棟4階 ギャラクシー	一般	共催： 島根大学医学部附属病院 がんゲノム医療センター/ がん専門医療人育成 事業(ポストがんプロ) 後援： 「未来がん医療プロフェ ッショナル養成プラン」
2/21(木) 18:30～19:30	平成30年度 第3回 臨床研究・統計セミナー 「臨床試験の目的とデザイン、必要症例数の設定」 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 鈴木 律朗 准教授	みらい棟4階 ギャラクシー	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター

詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



NEWS



CONTENTS

- ・島根大学医学部附属病院
医師派遣検討委員会の活動状況(中間報告)
- ・難病総合治療センター検査部門での
先天代謝異常検査の受託を開始しました

- ・うさぎ保育所の
クリスマス会について
- ・島根大学医学部における
研修会・セミナー開催情報



島根大学医学部附属病院 医師派遣検討委員会の活動状況(中間報告)

病院長 いがわ みきお
井川 幹夫

2018年10月1日に県内の49病院と41の公立診療所を対象として実施された勤務医師実態調査によると、初期研修医と休職者を除いた常勤医師数は1,159人で、2017年よりも21人増加しており、地域枠入試等様々な施策が功を奏していると考えられ、今後も年毎に県内勤務医師数の増加が期待されます。一方、医師の地域偏在、診療科偏在は解消されておらず、医師偏在の解消を目指した改正医療法・医師法が2018年7月に成立したことを受けて、2019年度に都道府県が策定する医師確保計画に必要な「医師偏在指標」が厚生労働省から提示されたことはご存知の通りです。次年度以降、「医師偏在指標」を参考に医師確保を図ることになりますが、県内医療機関への医師派遣は、当院の重要な機能・役割ですので、地域の医師需要、各診療科医師の適正配置に関するデータに基づき、透明性の高い医師派遣を実施するため、2015年に医師派遣検討委員会を設置しました。椎名データセンター長の協力を得て、国立大学病院管理会計システムHOMAS2を活用して算出した医師人件費、英語論文数などに基づいて推計した当院各科の適正医師数に来年度入局予定者数を加えた診療科別の派遣可能医師数を算出しています。さらに2次医療圏内の医師の分布、年齢、専門医・指導医資格、派遣依頼医療機関の診療実績等により医師派遣の妥当性を検討し、2019年4月の常勤および非常勤の医師派遣を検討し、先月の委員会で派遣計画の概要が決まりました。常勤医師の派遣は増員が17名、補充が6名、交替が7名、研修が6名で、総計36名となります。今回の常勤医師派遣では、新専門医制度のプログラムによる研修が多いのが特徴で、今後もこの傾向は続くと思われます。これからもデータに基づいた客観的で透明性の高い医師派遣を継続することにより、医師の地域偏在の是正等に貢献できるよう努力しますので、医療機関の皆様方のご協力をよろしくお願い申し上げます。



難病総合治療センター検査部門での 先天代謝異常検査の受託を開始しました

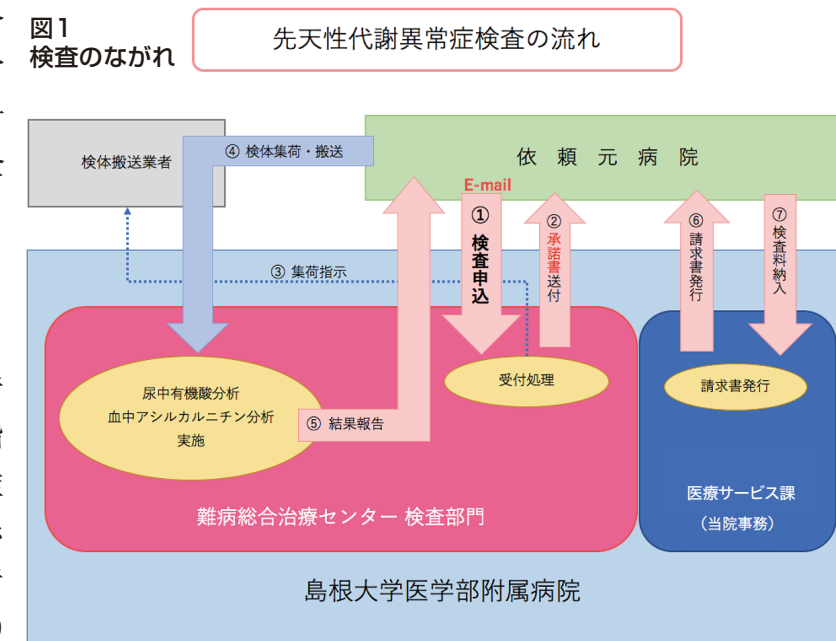
難病総合治療センター こばやし ひろのり
小林 弘典

2018年12月から附属病院内の難病総合治療センター検査部門では先天代謝異常症の診断に必須である以下の質量分析計という検査機器を使った、2種類の検査を全国の医療機関を対象に受託開始しました。

- ① LC-MS/MS(タンデムマス)による血中アシルカルニチン分析
- ② GC/MSによる尿中有機酸分析

これらの検査は小児科学で20年以上行われてきたもので、有機酸代謝異常症や脂肪酸代謝異常症といった先天代謝異常症の診断や治療に非常に大きな貢献をしてきました。これらの検査で使用する質量分析計は一般的な臨床検査機器と比べても取り扱いに熟練が必要であり、そこから出てくる結果の解釈も先天代謝異常症に対する専門的な知識や経験が必要です。診断の要となる検査であり、保険診療として現在国内でこれらの検査を提供できるのは島根大学病院のみです。これまで病院間で検査を委託する事は遺伝子検査や病理学検査などの一部の検査以外は出来ませんでした。2018年12月から施行された医療法の改正、および2018年11月末の医政局通知などを踏まえて、大学病院内の検査として安定的な提供が出来るようになりました。先天代謝異常症はいまや小児科領域のみの疾患ではなく、神経内科領域などを中心に成人患者が診断されるケースが増えています。そのスクリーニング検査としてこれらの検査は重要な役割を果たしています。検査は難病総合治療センター検査部門のホームページ(<https://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/nanbyou/checkup/tandem-ms.html>)から受付可能で、その後専門業者による検体搬送、病院間の事務処理、結果報告などがスムーズに行える体制になっています。

図1
検査のながれ



問合せ先

島根大学医学部附属病院 難病総合治療センター検査部門 先天性代謝異常症検査係
〒693-8501 島根県出雲市塩冶町89-1
電話(PHS):070-5043-0796(平日9:00~16:00) E-mail:taisha@med.shimane-u.ac.jp



島大病院ニュース 2019年2月

ご報告



新規MRI装置の稼働開始について

放射線部 副技師長 診療放射線技師 あそう ひろや
麻生 弘哉

本年1月より、新規MRI装置2台が稼働を開始しました。従来装置を合わせMRI装置4台体制として検査業務を行います。新規MRIは2台ともフィリップス（オランダ）社製で3.0T（テスラ）Ingenia Elition（国内3号機）と1.5T Ingenia in-bore experience（中四国3号機）で、両装置とも被検者が入るトンネル状の空間が広く（直径70cm）、検査中には映像と音楽が流れるシステムで、閉所や騒音が苦手な患者さんにも安心して検査を受けていただけるようになりました。また、鮮明な画像をより短時間で撮影できるため検査時間の短縮、さらに高快適性検査マットレスも採用し患者さんの負担軽減に努めています。

新しい装置の最も大きな特徴は、“新設計のグラディエントコイル”を搭載しているという点です。MRIのエンジンともいわれるグラディエントコイルは、従来装置では高い出力による熱や電流の発生を抑えることができず、画質劣化の原因となっていました。本装置ではこの熱を効率よく冷却する新設計で、高い出力を長時間維持することにより、これまでにない高画質化を実現し、精度の高い診断が可能となりました。今後も安全安心な医療を心がけ、より高画質なMR画像を提供してまいります。



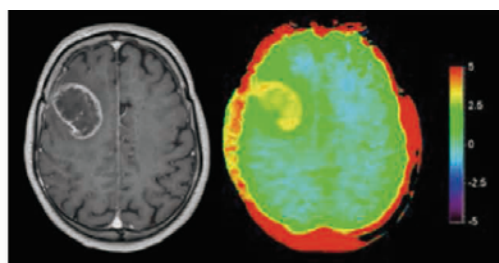
Ingenia 1.5T (in-bore experience)



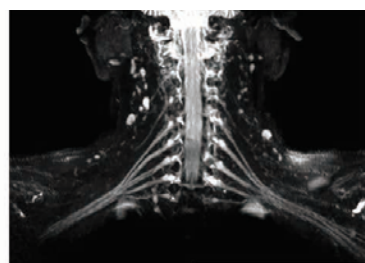
奥のTVを観ながら検査可能



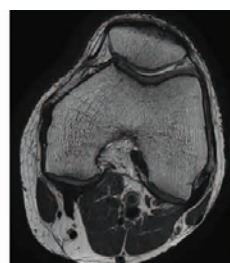
3.0T Ingenia Elition



分子イメージング：非造影で脳の悪性腫瘍などを診断



神経イメージング



従来より(60%)分解能向上(膝関節)



非造影脳血管撮像：(カテーテル)血管造影検査と同様な動画像の取得



平成31年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2019年2月

ご報告



時間外出入口・救命救急センター待合改修工事について ～快適な診療空間を目指して～

会計課施設管理室

当院ではC病棟1階時間外出入口において、風除室の設置及び救命救急センター待合の改修工事を行いました。

これまで、C病棟西側に面している時間外出入口付近は西風が強く、特に冬季間は風の吹き込みにより、隣接する救命救急センター待合では寒さ対策に苦慮しておりました。この度、時間外出入口に風除室を新設し、自動扉をインターロック制御することで、屋外からの冷気が直接流入することなく建物内の温度を保つことが出来るようになりました。

また、風除室の設置に伴い、救命救急センター待合の拡張整備を行いました。これまで救命救急センターでは待合スペースが不足していたため、休日は退院手続きをされる方と時間外診療の患者さんで混雑していましたが、拡張整備により今までよりも多くの方が座ってお待ちいただけるようになりました。

当院では患者さんのご意見を参考に、より良い診療環境となるよう努力してまいります。



平成31年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL：0853-20-2068 FAX：0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年2月

ご報告

原子力災害医療派遣チーム車両の導入について

災害医療・危機管理センター センター長 わたなべ ひろあき
渡部 広明

当県は島根原子力発電所を有する原発立地県です。原子力発電所を有するエリアにおいては、地震などの大規模災害時に原発事故による原子力災害が起こることを想定し備えることが求められます。

現在、原子力規制庁により原子力災害時に被災地域の原子力災害医療の中核機能を果たす原子力災害拠点病院が設置されており、当院はこれに指定されています。原子力災害拠点病院は、その専門的観点から医療提供が可能な原子力災害医療派遣チームを有することとされており、同チームは、原子力災害時に被災した原子力災害対策重点区域内の道府県内で医療活動を行う専門チームで、被災地域への移動に必要とする車両を要することも要件とされています。今回、この医療チームが保有する車両を島根県立中央病院と共に導入いたしました。本車両は医療チームを派遣するのみならず、被災地域と本部を結ぶ通信車両としての機能を兼ね備えたものとなりました。衛星通信アンテナを車両ルーフに設置し、災害による通常通信回線が寸断された状況にあっても衛星通信を通じて災害情報の収集や本部との通信を可能とするものです。本車両の外には3つのカメラを装備しており、車両周囲の映像を撮影し本部へ転送することが可能です。また放射線量計も装備しています。

当院では万が一の原子力災害時にも医療提供できる体制を今後も整備して参ります。



島大病院ニュース 2019年2月

ご報告



病院ボランティア表彰式・感謝状贈呈式

当院では、患者さんがより快適な環境で安心して治療を受けていただけるよう、地域の皆様による環境整備や玄関ホールでの案内、患者図書室「ふらっと」の補助、コンサート等、様々な場面で個人および団体のボランティアの皆さんにお世話になっています。

平成30年12月21日(金)、1年間ご尽力いただきました、22団体と25名のボランティアの皆さんに、井川病院長から表彰状並びに感謝状の贈呈がありました。

贈呈式終了後は懇談会が行われ、様々な提案や意見をいただきました。

当院では、新たにボランティアをしてくださる方を募集しています。お気軽にお問合せください。



出席者一覧

お名前	活動内容
岩本 喜久生 様	病院玄関ホール受付補助
田中 勉 様	病院玄関ホール受付補助
松原 さだ子 様	病院玄関ホール受付補助
加藤 則子 様	病院玄関ホール受付補助
石橋 佑二 様	C 5 病棟花壇整備
高橋 忠文 様	患者図書室「ふらっと」補助
吉井 紀子 様	患者図書室「ふらっと」補助
天理教ひのきしん隊 代表 石橋 佑二 様	構内の環境整備
出雲慶人会連合会 会長 富田 精一 様	構内の環境整備
塩冶百寿会奉仕部 部長 今岡 碩博 様	構内の環境整備
出雲市シルバー人材センター塩冶・古志地区班 世話人 佐々木 進次 様	構内の環境整備
出雲土建株式会社(代表取締役 石飛 裕司 様) 取締役専務 寺田 直広 様	構内の環境整備
「こころ音」雅楽会 中山 信男 様	病院ボランティアコンサート
出雲ロータリークラブ(会長 江角 彰宣 様) 副会長 日野 実 様	病院ボランティアコンサート
出雲ハーモニカ同好会 松井 健治 様	病院ボランティアコンサート
創作朗読楽団 Repos (ルボス) 石原 美和 様	病院ボランティアコンサート
島根大学 フローラ室内楽団 村上 航太郎 様	病院ボランティアコンサート

問合せ先 医療サービス課 ボランティア担当 TEL: 0853-20-2068



平成31年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成31年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問 合 せ 先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年2月

ご報告



うさぎ保育所の運営状況について

うさぎ保育所は本院における子育て支援・女性のための職場作りの一環として、平成18年4月に島根大学医学部附属病院敷地内に定員20名で開設し、現在は定員90名で運営しています。

平成30年12月18日(火)に平成30年度院内保育所運営協議会を開催し、うさぎ保育所の職種別登録者数(表①)と利用状況(表②)及び収支状況の報告、今年度の取組の紹介、また、来年度に向けての備品購入や施設改修について審議しました。

年間約35,000千円の支出超過分については、島根県病院内保育所運営費補助金(5,218千円)を充当し、残りの約30,000千円は附属病院収入で補填しています。

保育所から要望のありました、角型プールの購入や保育室の畳の張替、また避難経路を整備しスロープを設置することが決定しました。

これからも、うさぎ保育所が教職員の仕事と家庭の両立の一助となるよう運営していきますので、よろしくお願いいたします。

今年度の取組(抜粋)

- ①地域で活動されている方々との交流(音楽会、人形劇、神楽)
- ②学生との交流(キンダーフロイント、フロア室内楽団)
- ③歯磨き指導(歯科口腔外科)
- ④リトミック
- ⑤英会話レッスン
- ⑥こいのぼり掲揚式
- ⑦年長児お泊り保育
- ⑧イルミネーション点灯式
- ⑨警察署、消防署との連携
- ⑩すくすく睡眠事業

表①
H30年度 ※12月現在の登録者数

職種	基本保育	一時保育	計	割合
教育職員	18	8	26	21%
病院診療職員	12	7	19	15%
看護職員	40	8	48	39%
医療職員	9	6	15	12%
一般職員	8	1	9	7%
学生	3	4	7	6%
計	90	34	124	100%

表②
H30年度 定員90名 終夜保育

月別	基本保育	一時保育	計	利用児童数	延べ回数
4月	79	2	81	4	16
5月	79	3	82	4	14
6月	80	1	81	4	12
7月	83	3	86	5	13
8月	84	3	87	14	21
9月	86	2	88	4	10
10月	86	1	87	4	14
11月	87	6	93	4	12
12月	90	3	93	4	9
計	754	24	778	47	121



島大病院ニュース 2019年2月

ご報告



(左より、消化器・総合外科学講座 田島 義証 教授、井川 幹夫 病院長、ロボット支援手術推進センター 副センター長 平原 典幸 准教授)

山陰初！ 手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」を用いて 食道がんに対する高難度の 「胸腔鏡下食道切除術」に成功しました

記者
会見

いまわか しゅうこ
総務課企画調査係 今若 修子

当院では、昨年5月から「ロボット支援手術推進センター」を設立し、安全なロボット手術の導入および適応の拡大について積極的に取り組んでおり、これまでに前立腺がん334件、腎がん42件をはじめ、総計446件の手術を安全に実施してきました。

この度、消化器外科において高難度医療技術に認定されている「ロボット支援胸腔鏡下食道切除術」を山陰で初めて、中四国地方で2施設目を実施し、平成30年12月19日記者会見を行いました。

食道は頸部、胸部、腹部の3領域にわたり、胸部では、心臓、肺、気管など重要臓器に近接しています。胸部食道がんに対して開胸術を行う場合、通常、右胸からのアプローチで食道切除術を行った後、胃管を作成し、頸部にて吻合します。食道は、胃、大腸と比べ、広範囲にリンパ節転移をきたしやすく、比較的早期であっても、広範なリンパ節郭清が必要となります。さらに、開胸術で食道に到達するには、片方の肺を一時虚脱させる必要があり、肺合併症を起こしやすくなります。

このように、胸部食道がんの手術は、侵襲が大きく、入院期間も長く、術後も大きな創が残るため、患者さんの肉体的・精神的負担も大きいものでした。

1990年代からは、胸にポートを数箇所設け、専用ビデオカメラや手術器具を体内に挿入し、モニター画面に展開される映像を見ながら手術を行う胸腔鏡手術が行われるようになり、患者さんの侵襲は低減され、整容面でも優れ早期の社会復帰が可能になりました。

今回成功した手術支援ロボット「ダ・ヴィンチXi」を用いた同手術では、胸腔鏡手術の利点に加え、術者はサージョンコンソールの高画質3D画像を見ながらコンピューターを介したロボットのアームを操作するため、手振れがなく、鉗子の関節機能を生かした精密で正確な手技が行えます。また、出血量が格段に少ないのも特長で、高難度手術とはいえ、患者、術者双方の負担が大幅に軽減されています。

記者会見で、ロボット手術推進センター副センター長：消化器外科の平原典幸准教授は「『胸腔鏡下悪性腫瘍手術』は2018年度診療報酬改定で保険適用されており、今後も症例を増やしていきたい。『ロボット』という言葉は冷たい響きに聞こえますが、手術ではより人間に近い動きを再現し、より優しい医療を提供させていただきたい。」と語りました。



平成31年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成31年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ

<http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





島大病院ニュース 2019年2月

ご報告



環境整備ボランティア活動を行いました

医学部会計課施設管理室

当院では草刈等の環境整備について、地域のボランティアの方々にお世話いただいたり、委託業者が実施しておりましたが、平成29年9月からは、環境整備ボランティアの制度を発足させ、職員・学生も環境整備を行うようになりました。

今回は、昨年12月22日(土)に実施した落ち葉拾いの環境整備ボランティア活動のご報告です。

当日は曇りとなり12月にしては穏やかな天候となりましたが、前夜に降った雨のおかげで落ち葉が水を含み作業を大変苦しましましたが、10時～11時までの間、井川病院長以下職員総勢20名により、本部棟玄関周りから臨床研究棟周辺について、当初予定していた以上の範囲の作業を行うことが出来ました。落ち葉拾いは単に美観のためだけではなく、側溝の詰まりを予防するために重要とのことで、その面でも貢献できたかと思えます。

今後も当院の美観等を維持するため、環境整備ボランティア活動を行っていききたいと思いますので、職員・学生のご理解・ご協力方よろしくお願い致します。



島大病院ニュース 2019年2月

ご報告



ワーキング・イノベーションセンターの設置について

いがわ みきお
病院長 井川 幹夫

2018年7月に公布された「働き方改革を推進するための関係法律の整備に関する法律」の2019年4月施行分で本学が対応する部分は、特別時間外勤務の時間短縮、就業管理システムの導入による厳格な労働時間の把握、年次有給休暇の計画的かつ確実な取得、産業医・産業保健機能の強化となります。これから関連規則、労使協定書の改正、全学説明会が行われる予定です。当院では産業医の活動を強化するため、附属病院に診療支援施設の一つとしてワーキング・イノベーションセンター(以下センター)を設置しました。

センターの設置目的は、当院で業務を行う職員がクオリティーの高い新しい働き方を実現するため、職場の課題解決、労働に関する意識改革を通じて職場環境の改善を図ることにあります。センターの業務は、医療従事者等の健康教育、健康の保持増進に関わる相談に関すること、医療従事者の安全衛生、精神的健康の保持増進に加えて、職場環境の調査、分析及び改善、業務の効率化等に関する提案などが挙げられます。ただ、医療機関においては職種により働き方が異なり、特に医師では診療と研鑽の区分、当院においては医員と裁量労働制の教員の労働時間の取り扱いに違いがあるなど複雑です。また、1月には厚労省が「医師の働き方改革に関する検討会」で、診療に従事する勤務医の時間外労働時間として、年間960時間、月100時間(例外あり)、地域医療を適切に確保するための特例として年間1,900～2,000時間、月100時間(例外あり)の2024年度からの適用を提案しているのはご存知の通りです。特例措置については、議論のあるところですが、当院に適用される可能性が高く、一方では連続勤務時間制限28時間、勤務間インターバル9時間の確保が求められる見込みです。今後、病院の安全衛生委員会の役割拡大に加えて、産業医の業務が広がります。産業医がセンター長を務めるワーキング・イノベーションセンターが、当院の就労環境改善に向けて活動を開始します。





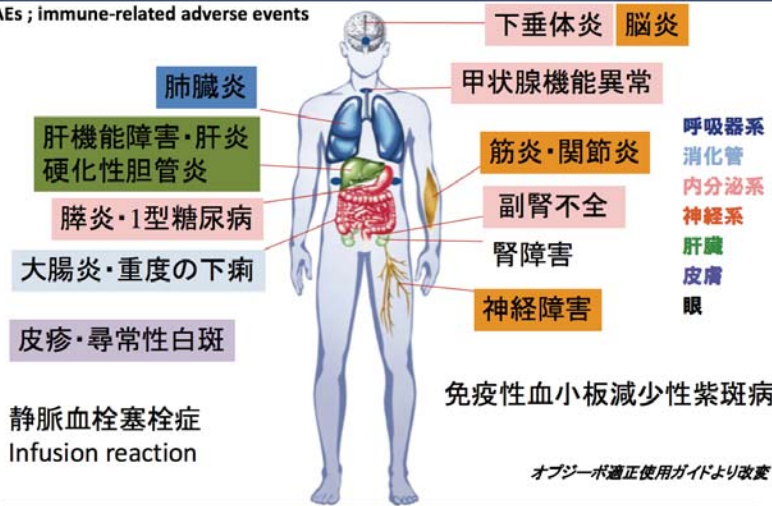
島大病院ニュース 2019年2月

ご報告

免疫チェックポイント阻害剤の勉強会を開催しました

免疫関連有害事象 ir-AEs

Ir-AEs ; immune-related adverse events



オブザーボ適正使用ガイドより改変

免疫恒常性が失われた結果起こる反応、全身・多臓器にわたる

図1

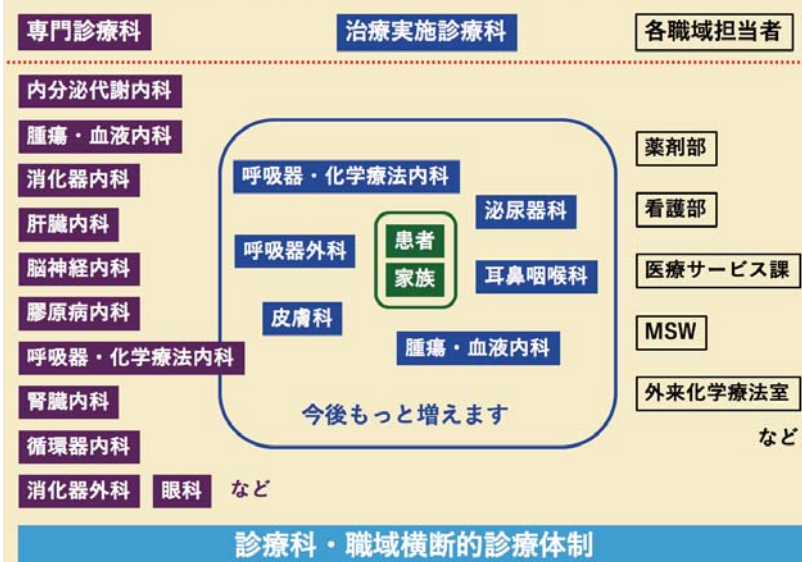
先端がん治療センター

すずみや じゅんじ
鈴宮 淳司
いのうえ まさや
井上 政弥
おかだ たかひろ
岡田 隆宏

免疫チェックポイント阻害薬(以下、ICI)は、がん免疫療法のひとつで、副作用も従来の抗がん薬とは異なります。ICIによる副作用は、自己免疫疾患に似ていて、免疫関連副作用(以下、irAE)とよばれ、あらゆる臓器に発現します(図1)。このため、irAEに対して病院全体で取り組む対策チーム(図2)の構築が必要です。当院の体制作りのために、12月26日(水)にICIの勉強会を開催しました。呼吸器・化学療法内科の津端由佳里医師からirAEのマネジメントの実際や対策チームの体制、薬剤部の渋谷理恵薬剤師から当院のICIの使用状況と副作用の管理、外来化学療法室の妹尾尚美看護師から外来化学療法室での使用状況や副作用の発生状況を講演いただきました。136名の多くの職員が参加、質問も多く、活発な勉強会となりました。安全にICI治療を実施できるirAE対策の体制づくりを進めてまいります。引き続きご協力をお願いします。

図2

当院の免疫チェックポイント阻害薬の副作用対策チームのイメージ図



診療科・職域横断的診療体制



平成31年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2019年2月

ご報告



非アルコール性脂肪性肝疾患に対する積極的な治療を行っています

肝臓内科 副診療科長 とびた ひろし
飛田 博史

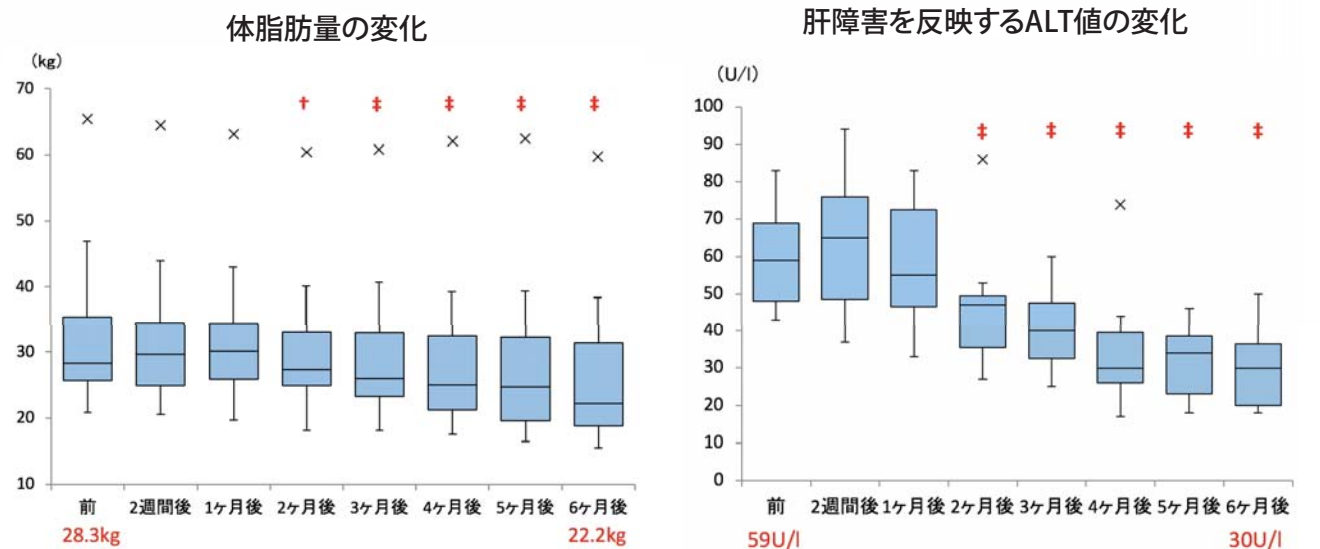
非アルコール性脂肪性肝疾患(NAFLD)は本邦では2,000万人程度が罹患している国民病です。NAFLDは、お酒を全く飲まないか飲酒量が乏しい(男性はビール750ml/日未満、女性はビール500ml/日未満)にもかかわらず、食べ過ぎや運動不足に伴って肝臓に脂肪が沈着(脂肪肝)する病気です。NAFLDは、肝臓の線維化が進展した状態である肝硬変や肝臓に進行することがある疾患ですが、保険適応が認められている治療薬が存在しません。

NAFLDと同様に国民病である2型糖尿病の約60%にNAFLDが合併していますが、当院肝臓内科では、2型糖尿病を合併したNAFLD症例に対して、2型糖尿病の治療薬であるSGLT2阻害薬(腎臓の近位尿細管からのグルコースの再吸収を抑える薬)を用いた治療を行い、良好な治療成績を得ています(図)。

当院肝臓内科では、ウイルス性肝疾患、自己免疫性肝疾患や原因不明の肝障害と共に、NAFLDに対する積極的な治療を行っていますので、外来への紹介をお待ちしております。

問合せ先 内科外来 TEL: 0853-20-2381

図:2型糖尿病を合併したNAFLD11症例に対するSGLT2阻害薬による治療成績



(Wilcoxon signed-ranks test, +: P<0.05, *: P<0.01)



平成31年2月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





当院の乳房トモシンセシスについて

乳腺・内分泌外科 診療科長

いたくら まさゆき
板倉 正幸

マンモグラフィは乳房専用のX線撮影のことで、乳房を挟んで圧迫しX線を照射して撮影する検査です。

乳房トモシンセシスとは、従来のマンモグラフィに加え、角度を変えて複数の方向から撮影し、収集したデータを三次元的に再構成して断層像を作成する技術です。マンモグラフィと同様に乳房を圧迫して撮影を行います。従来のマンモグラフィは、病変と周囲の乳腺組織が重なってしまう欠点がありましたが、乳房トモシンセシスでは乳腺の重なりが少なくなることによって正常乳腺と病変との区別が容易にできる精度の高い検査が可能となります。

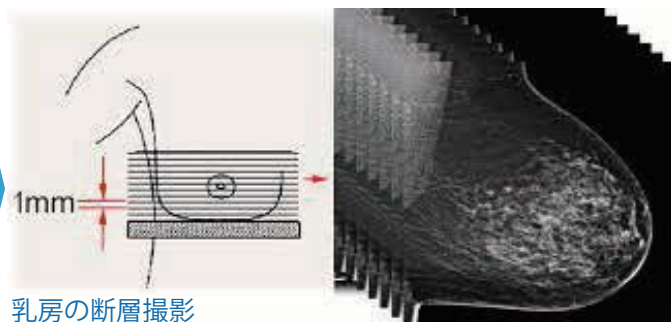
乳房トモシンセシスは、X線が発生する管球を移動して撮影することにより、薄い断面ごとの撮影が可能となった最新撮影技術で、X線管球が動いている間は約40秒を要します。高精度な検査である分、圧迫時間がマンモグラフィに比べて長く、痛みを感じることがあります。当院の装置ではマンモグラフィの画像とトモシンセシスの画像が同時に撮影できます。現在は乳がん検診で要精査の方の精密検査を中心に撮影しています。



当院の撮影装置

トモシンセシスのイメージ

従来のマンモグラフィでは、組織が重なって指摘が困難な病変を、トモシンセシスは分離した状態に再構成し、病変が明瞭化して見えます。



乳房の断層撮影

